

土木学会の顧客は市民

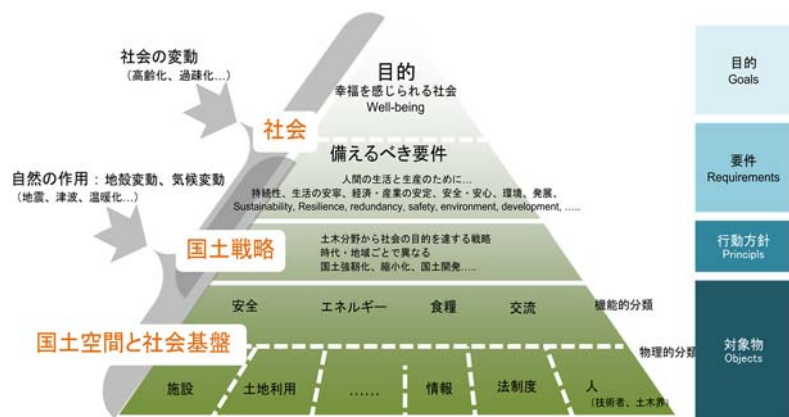
JSCE2015では、「顧客」は「市民」とあるとの定義の大きな転換を行いました。JSCE2010での顧客は「会員」から再定義をすることで、公益社団法人として社会の問題を様々な社会セクターと一緒に解決することを目指します。

JSCE2015では、土木学会員は市民と土木をつなぐ人材であり、土木技術の実践者かつインタープリターであることが期待されます。

JSCE2015では、土木学会は土木学会員が顧客（市民）に提供する技術サービスと社会サービスの開発の場、サービス提供力の向上の場を設けます。

土木のフレーム

JSCE2015では、人間が経済的な充足感だけでない幸福を感じられるような社会を目指し（目的）、そのような社会が備えるべき要件を満たすために、土木が描くビジョン（国土戦略）を、ハードとソフトのインフラでどのように達成するかを体系化し、土木のフレームとして示しました。



社会と土木の100年ビジョン

土木学会は、JSCE2015と同時に、土木界のこれまでの経験を踏まえ、様々な課題解決、さらには持続可能であり次世代が夢と希望を持つことができる社会の構築を提示し、土木技術者のあり方、役割を示す「社会と土木の100年ビジョンーあらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築くー」を策定しました。



JSCE 2015

あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す

JSCE2015ー土木学会の活動目標と行動計画

JSCE2015は、5年ごとに策定される土木学会の活動目標と行動計画であり、JSCE2000（1998年）、JSCE2005（2003年）、JSCE2010（2008年）に続く、JSCE20XX シリーズの第4版です。

JSCE2015の策定に当たっては、外部有識者ヒアリングや有識者会議、土木学会内の各部門・委員会、ウェブでのパブリックコメントなどにより広く意見を集めました。

JSCE2015の計画期間は、2015年度から2019年度までの5年間です。

JSCE2015では、定款第3条^{*1}に定める目的を達成するために土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能をJSCE2010に引き続き継続的な行動の骨格として位置づけ、社会・インフラの現状から概観した今後20年～30年の中期重点目標と、現在の社会が直面している問題の解決や、中期重点目標を達成するために現段階で注力するのが望ましい課題を、5年間の重点課題として提示しました。

JSCE2015は、土木学会のウェブページ (<http://www.jsce.or.jp/>) から入手できます。

*1：学会は土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的とする。

3つの使命と具備すべき9つの機能

JSCE2015では、土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与するために、JSCE2010で設定された土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能を再設定しています。

学会の使命	学会が具備すべき機能
① 学術・技術の進歩への貢献	a) 学術・技術の先端性・統合化 b) 学術・技術の事業への展開 c) 技術蓄積・移転・流通 (技術基準の国際化)
② 国内・国際社会に対する責任・活動	d) 公正な立場からの専門的知見の提供 ・技術支援等の社会貢献 e) 国際調和と貢献 f) 情報収集・分析・発信機能
③ 技術者資質と会員満足度の向上	g) 技術者支援 (技術力の向上、倫理観の研鑽等) h) 情報取得機会の拡大 i) 学会運営の適正化・効率化

学術・技術の進歩への貢献は、既存の学術・技術体系を基本に、さらなる進歩・発展を目指すとともに再構築による総合化を図ることで、土木学会の学術水準が社会に認知されることを目指します。

国内・国際社会に対する責任・活動は、国内外を問わず社会に対する直接的働きかけを指すものであり、公益社団法人として、顧客である市民の満足度向上を図り、土木学会が社会に貢献する不可欠な存在として認知されることを目指します。

技術者資質と会員満足度の向上は、土木技術者および学会員に対する支援活動により、学会員を含む土木技術者の資質向上を図るとともに、学会員の満足度の向上を図ることを目指します。

中期重点目標

JSCE2015では、**社会と土木の100年ビジョン**で示された目標とする社会像や安全、環境、活力、生活の視点での土木が取り組む方向性も踏まえ、今後20～30年の**中期重点目標**を設定しています。

- 安全で安心して生活できる持続性のある国土再構成への提言
- 世界各国が安定的に発展できる国土形成への提言
- 公正な立場からの専門的知見の発信
- 社会インフラ技術者の育成と社会的認知の啓発

JSCE2015重点課題

JSCE2015では、現在の社会が直面している問題の解決や、中期重点目標を達成するために現段階から注力するのが望ましい課題を、5年間で重点的に取り組むべき重点課題として設定しています。

- **震災からの復興と防災・減災のための基盤（ハード・ソフト）構築**
大規模自然災害に対してレジリエント（強靱）でサステナブル（持続可能）な社会を実現するために、国民の安全を守り安心して生活ができる基盤を創出します。
- **福島第一原子力発電所事故の対策のための土木技術の集約**
福島第一原子力発電所事故による放射性汚染物質の拡散や汚染水の問題、今後数10年にわたる廃炉の問題に取り組みます。また、原子力発電所事故の影響を受けた地域の復興にも取り組みます。
- **インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・分担システムの構築**
老朽化が多数のインフラで顕在化する前に、市民の命を守る観点やインフラの持続的な運用による市民の負担軽減の観点から、インフラの戦略的な維持管理・更新を行えるようにします。
- **地球規模の課題への対応**
資源・エネルギー・食糧・気候変動・生物多様性など、地球規模で解決すべき課題に、海外とも協働しながら、時間を超えた将来の市民、空間を隔てた市民への責任を果たします。
- **大規模イベントとインフラ・空間整備への緊急対応**
2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、持続可能な都市経営、都市構造の再構築を推進します。
- **次世代技術者の育成と活用**
土木界における人材とその働き方の多様性を支えるダイバーシティを推進するとともに、従来の境界をひろげる次世代技術者の育成や活用に取り組みます。
- **国際的技術価値移転の推進**
日本の土木が築いてきたハード・ソフトの融合的総合技術の価値を国際的に普遍的な価値として普及させ、当事国や地域が将来にわたって豊かになり得る取組みを行います。
- **価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用**
社会のインフラに対するニーズを的確に把握し、学会内の有機的結合で整理されたシーズや新たな検討成果に基づき情報発信をする仕組みの構築を行います。
- **他機関・他分野との連携**
学会内での従来の境界にとらわれない活動に加え、学会外で他機関や他分野との連携を進めます。
- **学会内活動の有機的結合とその評価**
従来の技術分野や学会活動の境界をひらき、顧客である市民の観点から、市民により近い組織である支部の活動の一層の充実を図ります。